

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和元年 6月 6日

報告番号 乙	第 号	氏 名	會田 千重
審 査 員	主 査	松尾 宗明	
	副 査	阿部 竜也	
	副 査	田中 恵太郎	
論文題名	題 名 Oxytocin levels and sex differences in autism spectrum disorder with severe intellectual disabilities 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Psychiatry Research, Volume 273, 67-74, 2019		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、重度知的障害児・者、特に自閉スペクトラム症（以下 ASD）を合併する患者の血清オキシトシン（以下 OXT）濃度と障害特性の関連・性差について調査したものである。79 名の入院患者を対象に、血清 OXT 濃度と評価尺度（田中ビネー V または遠城寺式乳幼児分析的発達検査、ABC-J、CARS-TV、RBS-R）を測定し解析している。患者は平均年齢 39.53 歳（±11.65）、男性 50 名女性 29 名、うち 54 名が ASD を合併していた。性別や診断別（自閉スペクトラム症、てんかん）の血清 OXT 濃度に有意差はなく、年齢、知的能力、体重、BMI、各評価尺度合計得点と血清 OXT 濃度の相関はなかった。ASD 群で血清 OXT と各評価尺度下位項目に相関があり性差が見られた。ASD 群男性で自傷・同一性保持行動と血清 OXT に負の相関、ASD 群女性で非言語性コミュニケーション・強迫的行動と血清 OXT 濃度に正の相関が見られた。</p> <p>以上の成績は、重度知的障害におけるオキシトシンと障害特性、性差との関係について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>精神医学に関し、種々質問を行い、特に自閉スペクトラム症について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和元年 6月 6日	最終試験日	令和元年 6月 6日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 元年 8月 5日

報告番号 乙	第 号	氏 名	迎 洋 輔
審 査 員	主 査 相 島 慎 一		
	副 査 安 田 浩 樹		
	副 査 青 木 久 久		
論文題名	題 名 The addition of human iPS cell-derived neural progenitors changes the contraction of human iPS cell-derived cardiac spheroids 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Tissue and Cell, Volume 53, 61-67, 2018		
論文審査結果の要旨	<p>神経前駆細胞が心筋再生において重要であることが報告されてきたが、心筋スフェロイドにおける神経前駆細胞の役割はいまだ解明されていない。</p> <p>本研究では、心筋スフェロイドへの神経前駆細胞配合における拍動機能変化を明らかにすることを目的として、ヒト多能性幹 (hiPS) 細胞由来心筋細胞と hiPS 細胞由来神経前駆細胞を種々の比率で配合し凝集させ、拍動スフェロイドを連日動画で記録・計測し収縮率を算出した。その結果、神経前駆細胞を添加しない心筋細胞のみの群ではスフェロイド構築が不完全で収縮率の算出が困難であった。一方、神経前駆細胞を配合した群の中で 30%配合群が最も収縮率が大きく、神経前駆細胞マーカー Nestin 陽性、神経線維マーカー (β3-tubulin, neurofilament medium chain) が陽性で、神経シナプスマーカー synapsin1 が陽性であった。</p> <p>本研究により神経前駆細胞の配合が心筋スフェロイドの拍動に影響し、神経線維まで成熟しうることを示され、今後、より高機能かつ移植可能な三次元拍動構造体の作成に寄与することが期待される。</p> <p>よって本論文は博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>循環器学に関し、種々質問を行い、特に iPS 細胞を用いた実験について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和 元年 8月 5日	最終試験日	令和 元年 8月 5日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和元年11月7日

報告番号 乙	第 号	氏 名	山 道 淳 太
審 査 員	主 査	入江 裕之	
	副 査	川口 寿	
	副 査	尾崎 岩大	
論文題名	<p>題 名 Assessment of tumor volume and density as a measure of the response of advanced hepatocellular carcinoma to sorafenib: Application of automated measurements on computed tomography scans</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年</p> <p>JGH Open: An open access journal of gastroenterology and hepatology, Epub ahead of print, 2019.</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>ソラフェニブ治療に対する進行肝細胞癌の腫瘍縮小効果の客観的評価手法として、画像による腫瘍体積と濃度を指標とする方法について調べた論文である。22名のソラフェニブ治療患者を対象とし、コンピュータによる自動計測機能を用いて対象患者の造影 CT 画像の評価を行った。得られた腫瘍体積と濃度を用いて重要な予後因子を同定した。腫瘍体積及び濃度を指標とした場合、全生存期間中央値は奏効群 (OR) で、20.4 か月、非奏効群 (non-OR) では、9.3 か月であった ($p=0.009$)。生存期間に関する最適な多変量モデルは、腫瘍体積及び濃度 (OR vs non-OR) とベースライン AFP 値が有意な変数であった ($p=0.01$)。従来の判定規準は、有意な変数ではなかった。ソラフェニブは腫瘍内血流の低下作用があり、従来の形態学的評価のみでは治療効果を十分に反映できず、病変の複雑な 3 次元的变化の 1 次元測定には限界がある。従って、腫瘍体積及び濃度を指標とする本手法は、奏効の判定に優れていると考えられる。以上の結果は新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行い、満足すべき答弁を得た。</p> <p>専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
	合格	不合格	合格
論文審査日	令和元年11月7日	最終試験日	令和元年11月7日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 1 月 17 日

報告番号 乙	第 号	氏 名	磯 田 広 史
審 査 員	主 査	田中恵太郎	
	副 査	青木 伸 介	
	副 査	尾崎 岩 太	
論文題名	題 名 Generation Gap for Screening and Treatment of Hepatitis C Virus in Saga Prefecture, Japan: An Administrative Database Study of 35,625 Subjects 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Internal Medicine, 2019. doi: 10.2169/internalmedicine.3248-19		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、肝臓が高率である佐賀県において、C型肝炎ウイルス (HCV) の感染率、HCV スクリーニング検査の受検率および直接作用型抗ウイルス治療 (DAA) の受療率について、世代毎の状況の違いを評価している。</p> <p>これによると、2008年4月1日から2014年3月31日までの期間に、HCV スクリーニング検査は35,625人が受検していた。HCV陽性率は1.18% (421人) で、陽性率は年齢と相関して増加した。世代毎に受検率を見ると、45～74歳でピークに達し (約6%)、若い世代と超高齢者で低下した。DAA治療の推定割合は、65～74歳 (65.8%) でピークに達し、若い世代で減少した。特に20～34歳の年齢層でのDAAの受療率は9.4%と低かった。HCVスクリーニングで陽性と判明した場合にDAA治療のために精密検査を受けた割合は、職場健診よりも医療機関で判明した方が高かった。</p> <p>以上の成績は、佐賀県における肝臓対策を考える上で重要な知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>肝臓病学に関して種々質問を行い、特にC型肝炎の疫学および佐賀県の肝臓対策について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和 2 年 1 月 17 日	最終試験日	令和 2 年 1 月 17 日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和2年1月29日

報告番号 乙	第 号	氏 名	今 村 義 臣
審 査 員	主 査	堀 川 悦 夫	
	副 査	原 英 夫	
	副 査	坂 本 麻 衣 子	
論文題名	題 名 An association between belief in life after death and serum oxytocin in older people in rural Japan 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Journal of Geriatric Psychiatry, 32, 102-109, 2017		
論文審査 結果の要旨	<p>社会関係におけるストレス調整機能の指標としてオキシトシン (OT) 濃度が有効であることを踏まえ、本研究では、宗教性、特に高齢者における来世信念と絆や愛着などの関係、そしてそれらの脳内機序の解明を目的としている。</p> <p>対象者は65歳以上の男女317名であり、年齢、性別、教育歴、ウエクストラ一記憶検査の論理記憶、そして来世信念を数量化した。また、ELIZA法によって血清オキシトシン濃度を定量化し、解析を行っている。年齢、性別、教育歴の変数の調整後の解析から、血清OT濃度と来世信念に負の相関を見いだした。</p> <p>これらの結果からOTと不安の関係や、来世信念と人間関係における不安低減の効果などについて、多くの観点から考察を行っている。</p> <p>以上の結果は、ストレス調整機能、来世信念、不安などと生化学的指標の関係について新たな知見を得たものであり、基礎研究の展開及び臨床実践への応用が期待されるものである。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>精神神経科学に関し種々質問を行い、特に宗教性と生化学指標との関連性について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和2年1月29日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
			令和2年1月29日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 2 月 17 日

報告番号 乙	第 号	氏 名	坂 西 雄 太
審 査 員	主 査	青 木 淳 介	
	副 査	松 尾 宗 明	
	副 査	尾 崎 岩 太	
論文題名	<p>題 名 Public subsidies and the recommendation of child vaccines among primary care physicians: a nationwide cross-sectional study in Japan.</p> <p>雑誌名 巻（号のみの雑誌は号），頁一頁，発行西暦年 BMJ Open. 2018 Jul 19;8(7):e020923. doi:10.1136/bmjopen-2017-020923. 2018年</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本研究は、臨床医から患者へのワクチン接種推奨度にどのような因子が影響を及ぼしているかについて、日本プライマリケア連合学会に所属するプライマリケア医（PCPs；特に内科医）を主対象者として行われた横断研究である。</p> <p>対象となった PCPs の response rate は 25.8%（743/2880 名）であった。</p> <p>各ワクチン公費助成についての知識がある医師ならびに接種を推奨する医師の割合、および、助成の知識と接種推奨の関連性は、1）インフルエンザ type b ワクチンで 75%、57%、関連性あり（AOR 4.38, CI; 2.58 -4.73）、2）結合型肺炎球菌ワクチンで 72%、54%、関連性あり（AOR 4.97, CI; 2.89 -8.54）、3）ヒトパピローマウイルスワクチンで 90%、58%、関連性あり（AOR 4.17, CI; 2.00 -8.68）であった。多変量解析を交え、他の様々な交絡因子についても検討がなされたが、PCP が公費助成の存在を知っていることが、ワクチン接種の推奨度に密接に関連していることが明らかとなった。</p> <p>本研究結果は、ワクチン政策の補完的知見として意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>各種ワクチンの特性、および、その意義に関し、種々質問を行い、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>専攻学術に関しては大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>論文内容についての審査員からの質問にも適切な回答確認することができた。また、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 2 月 17 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格
			令和 2 年 2 月 17 日